

建築実習（建築類型）

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	4	学科・学年	建築インテリア科 2年
使用教科書	新版 建築実習1 新版 建築実習2				
副教材等	担当教員が配布するプリント、教材				

「建築実習」はどんな科目？

測量実習・材料実習・計画実習・木構造実習・設計実習に分かれて、それぞれの実習において基礎から応用力までを身につける。

「建築実習」の学習の特徴は？

建築の専門分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

「建築実習」で大切なこと（留意点）は？

使用機材の点検、装備の整備などは開始前に行う。実習は慎重・確実に行い、スムーズな進行に留意して操作を行うとともに、観察・測定・記録・スケッチなど留意事項に注意して、正確かつ緻密に行うようにする。

1. 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学 習 内 容 (単元名)	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	〈設計〉	〈設 計〉 住宅の自己設計をすることにより一連の設計手順やプレゼンの方法を学習する。 〈測 量〉 測量で使用する器具、構造を学習する。 また、決められた時間内に正確に設置でき計測ができる能力を身に付ける。 〈材 料〉 コンクリートのスランプ試験と圧縮強度試験、鉄筋の引張試験を行い、材料の品質検査方法を学ぶ。 鉄筋の溶接方法を、体験を通して学ぶ。
	5	・「木造平屋建て専用住宅」の設計	
	6	・造園計画	
2 学 期	7	〈期末考査〉	
	9	〈測量・材料〉	
	10	・レベル測量	
	11	・セオドライト測量	
	12	・コンクリート圧縮強度試験	
		・鉄筋の引張試験	
	・溶接		
	※2パートをローテーション		
	〈中間考査〉		
	〈木構造・計画〉	〈木構造〉 木造建築物の施工を実際の現場と関連させながら、木工事についての方法、順	
	・木構造（木工具の取り扱い）		

3 学 期	1	・日照実験 〈PC・CAD〉	序を学習する。 木工具の取り扱いについて学習する。
	2	・ワード、エクセル、パワーポイント	〈CAD〉 CADの概要や基礎知識を学習する。
	3	・建築専用CAD ※2パートをローテーション 〈学年末考査〉	〈P C〉 エクセル、ワード、パワーポイントの 基礎操作を学習する。 〈計 画〉 住宅環境に影響を及ぼす熱、空気、光、 音などの環境要素と、その実態を学習する。

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	建築に関心をもち、知識、技術の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、設計や施工者としての、創造的・実践的な態度を身に付けようとしているか。	・出席状況・授業態度 ・課題提出・レポート
思考・判断・表現	建築に関する諸問題を把握し、自らの思考を深め、実践的な事例に対して適切な判断能力を身に付け表現できるか。	・作品完成度 ・実習内容の理解・提案
技能	建築物の設計や施工に関わる実際的な業務に必要となる技能を身に付けているか。	・使用器具の取り扱い ・学習内容の理解・提案
知識・理解	建築を包括的に学習し、建築物の構想の具現化に役立つ実践的な知識を身に付けるとともに、建築実習のもつ意義や効果を理解しているか。	・作品完成度 ・学習内容の理解・提案

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・作品完成度
- ・授業態度、出席状況
- ・定期考査
- ・毎時間ごとの授業への参加（提案）

また、1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

- ・きちんと一つ一つ理解して、実践力をつける。
- ・積極的に実習に取り組む。
- ・あきらめずに何度も挑戦する。